

第2節 4年間の学びの流れ

初等教育学科における四年間の学びの流れをたどってみよう。

ふだんの授業の詳細については後に説明するのでここでは割愛するが、「入学式」「オリゼミ」などの節目となる行事、「教育実習Ⅶ」「内諾訪問」「実習報告会」などの教育実習に関するもの、「子ども広場」「ゼミ分け」などのコースでの活動など、一覧できるようにまとめている（次表参照）。

学年 月	1 年 次		2 年 次			学 年 共 通
			幼 児 教 育	児 童 教 育	教 育 心 理 学	
4	上	入学式	コース・専修決定			
	中					
	下					初教バレーボール大会
5	上					
	中	オリゼミ				スポーツデー・教育学会総会
	下					
6	上					
	中			教育実習Ⅶ（小・1週間）		
	下		子ども広場			合同発表会
7	上					
	中			教育実習Ⅶ報告会		
	下					前期末試験
8	上			教育実習Ⅱ・Ⅲ内諾訪問		
	中					
	下			海キャン（3泊4日）		
9	上			山キャン（3泊4日）		
	中					
	下		教育実習Ⅶ (幼・1週間)			
10	上		子ども広場			文教祭
	中					
	下					うんどう会 卒業論文中間発表会 教育学会研究発表大会
11	上					
	中					
12	下	コース・専修説明会				
	上	コース・専修見学				
	中					
1	下					
	上					
	中	コース・専修分け				
2	下					
	上		教育実習Ⅰオリエンテーション			後期末試験
	中		保育実習 内諾訪問			卒業論文発表会
3	下					
	上					
	中					
その他						広島文教女子大学教育学会

学年 月		3 年 次			4 年 次		
		幼児教育	児童教育	教育心理学	幼児教育	児童教育	教育心理学
4	上						
	中						
	下				保育実習報告会		
5	上						
	中						
	下						
6	上						
	中				教育実習Ⅲ (2週間)		
	下	子ども広場					
7	上					教員採用選考試験-(一次)	
	中	ゼミ分け			教育実習Ⅲ報告会		
	下						
8	上	教育実習Ⅲ 内諾訪問			幼：適性検査		
	中	保育実習 (12日間／ 24日間)			幼：登録試験	教員採用選考試験-(三次)	
	下						
9	上						
	中						
	下						
10	上	子ども広場				文教祭で合唱	
	中		教育実習Ⅱ・Ⅲ (4週間)				
	下	保育実習 報告会				卒業論文中間発表会	
11	上	教育実習Ⅱ (2週間)					
	中				保育士登録申請		
	下						
12	上		教育実習Ⅱ・Ⅲ 報告会			教採報告会 (他学年へのアドバイス等)	
	中	教育実習Ⅱ 報告会					
	下				音楽ゼミ：卒業演奏会		
1	上						
	中					卒業論文学科提出	
	下			ゼミ分け		卒業論文大学提出	
2	上						ポスター発表
	中	保育実習 (12日間／ 24日間)				卒業論文発表会	
	下						
3	上						
	中					卒業式	
	下						
その他		小免：介護等体験					

「子どもが大好き」「小学校や幼稚園、保育所の先生になりたい」。そんな思いを胸に、入学した1年次は、広く「人間力」を磨くことが大事である。教育者を目指す以前に、魅力的な人間であらねばならない。人間力を磨く基礎を固めるための科目が多いのが、ここでの特徴となる。一所懸命努力すれば未来は拓けるのだ、ともに切磋琢磨して学び合う仲間がいてこそ自分も伸びるのだ、といった実感をかみしめながら、自信を培ってもらいたいと思う。

2年次は、各自が希望と適性によりコースに分かれて学んでいくこととなる。初等教育に関する専門科目が多くなり、ゼミ形式の少人数の学習も本格的になる。また、実習に関連した学びが入ってきて遣り甲斐を感じたり、学内行事・学科行事に参加して協同の喜びを体感したりするのも、学園生活にとけ込んできたこの2年次の特徴である。

続いて、3年次は、教育実習や保育実習など、観察実習ではなく、本実習となっていく段階である。小学校・幼稚園の教員、保育士など、それぞれの夢の実現をめざして実践的に学ぶ科目が主となっていく。こうだと決めた目標を達成するためには、やはり「自主的に学ぶ姿勢」が肝要である。そうした姿勢と相まって、現場経験豊富な教授陣の、教育実習の事前・事中・事後における的確な指導がなされていく。実習生として、安心して、思う存分、目の前の教育の仕事に打ち込んでもらいたい。

最後の4年次は、学びの総仕上げである。通常の授業の他、卒業研究に力を入れていくことになる。全員が、卒業論文を作成・発表・提出する。児童教育コース・幼児教育コースの音楽専修の学生は卒業演奏（発表会）にも、また図工専修・書写書道専修の学生は卒業制作（展覧会）にも取り組んでいく。もちろん、この最終年次では、小学校教員・幼稚園教員・保育士などの採用試験合格に向けた対策・支援が、授業以外にも十分になされていくことになる。

以上のような過程を経て、最終的には、先の「第1章 学科の歴史と伝統」中の「第1節 現在の人材育成目標」で触れたように、ディプロマ・ポリシーであるところの、次のような力を身につけ、社会に巣立っていくと信ずるものである。

○教育学、心理学、幼児教育学、教科教育学に関する専門的な知識を身につける。

- 初等教育に関する課題について、理論と実践を繋げ、論理的に思考し、適切に対応していく技能を身につける。
- 教育に携る者としての使命感と倫理観を持ち、生涯にわたって学習していくとする態度を身につける。
- 表現力を磨きつつ、主体性と協同性を持って日々の教育活動を創造していく実践力を身につける。

究極のところは、本学の創設者である武田ミキ先生のように、凛として、信念を貫き、粘り強く教育の仕事に携わる人になってほしいというのが、私たちの偽らざる気持ちである。

このように、実に多彩な、遣り甲斐のある学びが展開されるはずである。

論より証拠，である。ここからは、初等教育学科での学びを体験した青山（本節の執筆者の一人。本学科22期生でもある。）の手記となる。

青山は、教育心理学コースで学んだ。4年間をふり返り、手ごたえを感じたことを挙げると、次のようになる。

「実験が多いこと」

2年次最初の演習では、基礎の繰り返しだった。統計の計算式に頭を悩ませながら、実際に手計算を行う。その後は、実験・分析・レポートの繰り返し。

鏡映描写・錯視図形等、既存の器具を使ったり、要求水準では、実際に実験プランを立てたり、数多くの実験を体験した。初めて書いた実験レポートは、返却された時には赤でいっぱいだったが、心理学でのレポートの書き方を一から教えていただいたお蔭で、卒業論文の書式には困惑することがなかった。また、実験者・被験者の両方を経験したことは、とても興味深かった。

「卒業論文」

3年次の演習では論文を読み、要約・発表を行った。ここで多くの論文に触れ、自分のしたい卒業論文が微かに見えてくる。ゼミ決定の前段階として行う卒論構想発表で、コース内の教員・後輩に見られながら、自分のしたい研究を発表する。質問を受ける度に、終着点はどこになるのか、道筋が見えてくる。実際に実験・調査を行い統計処理する学生が多く、成果が目に見えるということが励みになる。他学科・他大学にも協力を得て行った研究は、苦労はしたが

その分得られたものも大きかった。

コース内行事として、ポスター発表というものがある。研究会等で行われる手法を大学時に経験できる。また、卒業論文発表会の良いいりハーサルとなり、自分の研究をより深く確認できる機会となる。

「専門の授業」

認定心理士取得のためには授業が幾分か多いが、障害について学習する機会もあり、ADHDやLD等、教員として現場に出た際に役立つ基礎知識を身につけられた。ただ教えられるのではなく、自分で調べるという作業が、その理解を深めた。また、心理学測定法や質問調査法、対人関係等、教育現場でも活かせる授業であった。

「自分の発見」

人の気持ちを理解したいと思い、このコースに入る学生が多い。専門の教員に支えられながら、他者理解と共に自己理解を進めていく。一番身近だからこそ、一番分らない自分。その発見・理解から、心の理解が始まるのではないかと思う。

以上、学びの体験者の手記を紹介してきた。紙幅の関係で、ここでは、児童教育コースや幼児教育コースで学んだ人たちのことについては触れられなかったことをお詫びする。しかし、チューター・ガイダンスや、「人間科学基礎演習」の授業などで、その穴埋めは十分なされるはずである。キャンパス内や寮でも、先輩の体験談を聞くチャンスは大いにあるだろう。

(青山佳矢・岡 利道)